

金沢

かわら版

15

尾張町しにせ通りで

なっただか。

他に新潟県相川町、上越市にも尾張町があった。

現在も名前が続いている尾張町は、金沢を含めて三つ。京都

市中京区の尾張町、そして葵しいのは浜松市尾張町。同市図書館によれば、三方原合戦の時、

逃げる徳川家康が馬上から鞭(よるい)のヒモを垂らしたま

ま通過したのが由来。最初は「紐垂(ひもたれ)」。だったが「下垂」と呼ばれ、品が良くなっているで小字名の尾張をもって町名としたとか。

このように、尾張の旗子で前田利家のお世話をしていた者が作った町名は金沢だけ。加賀藩の徳川政権に対する気配りが、対外的にあまり出身地の尾張の名を使うのを控えたからだろう。

百万石の繁栄の影を垣間見るようであるとともに、あえて尾張町の名前を付けたことに、前田家の気骨を感じたい。

(石野 秀一)
「尾張町若干会」

橋根の中華街の一角の尾張町は、明治のころの居留地三十カ所の一つ。初めは番付をつけていたものの味気ないので、明治七年に有名な地名を便宜上つけていったら、たまたま尾張町に

由来発見で潤い 全国の8地域に

町名仲間

ただでさえ、町並みにはハンパーガーやスーパリーの金園チェーンが同じ格好、同じ色の店舗を出してきて、町並みの味わいが失われるばかり。地域の区分けは簡単にほなるもの、果たしてこれで良かったのか。

商人に限らず、生活している者にとってわが町には愛着を抱いているものだ。町の由来を発見したり、特徴を知ることが、日々の過ごし方にも潤いをもたらすはず。

そんな中、尾張町という意味ありげな町名を全国に求めて「魚川地名大辞典」等を調べると、八つの地域に仲間がいる。「尾張」だけでみれば、二十二カ所。

慶長年間(十六世紀末から十七世紀初頭)に町地の造成をした大名の、生田の名前からついた銀座五、六丁目の尾張町。尾張藩中屋敷があった新宿区四谷の尾張町。



尾張町

石柱には「藩政期は金沢の経済の中心であった」として、町名由来の諸説を記している。